

スターフライヤー、釜山線運休へ

スターフライヤーが、北九州-韓国・釜山線を来年3月までで休止する方針を固め、北九州市などと最終調整していることが12日、分かった。同路線は搭乗率が低迷しており、円安による燃料調達費の上昇などで2014年3月期に大幅な赤字に転落する見通しとなる中、事実上の撤退は避けられないと判断した。西日本新聞などが報じた。

釜山線の休止により、運用する航空機を現状の10機体制から縮小し、維持費などの経費を削減することが可能となる。

釜山線は昨年7月に同社初の国際定期路線として、1日2往復で就航。就航初月は利用率 82.1%の高搭乗率だったが、竹島問題を巡って日韓関係が悪化し、搭乗率が約4割にまで低下した月もあった。

(西日本新聞)11/12

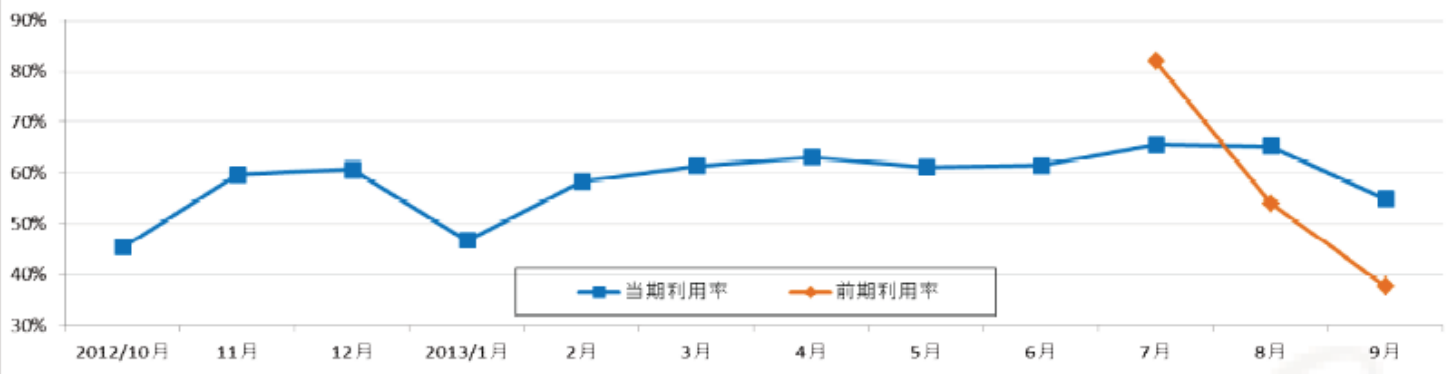
<http://qbiz.jp/article/27092/1/>

(読売新聞)11/12

<http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20131112-OYS1T00604.htm>

*スターフライヤー株主資料より

利用率の月次推移(北九州-釜山線)



	2012/10月	11月	12月	2013/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計
提供座席キロ(千席・キロ)	5,701	5,568	5,724	5,884	5,289	5,884	5,701	5,797	5,678	5,854	5,838	5,621	34,489
有償旅客キロ(千人・キロ)	2,577	3,324	3,476	2,747	3,087	3,610	3,800	3,546	3,480	3,843	3,816	3,084	21,380
座席利用率(当期、%)	45.2%	59.7%	60.7%	46.7%	58.4%	61.4%	63.1%	61.2%	61.5%	65.7%	65.4%	54.9%	62.0%
座席利用率(前期、%)	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	82.0%	54.0%	37.5%	55.3%
運航便数(便)	122	120	122	124	112	124	120	122	120	124	124	120	730

※注1: 北九州-釜山線は、2012年7月に就航

※注2: 北九州-釜山線でのコードシェアは行っていない

NAA、2013年3月期中間決算、純利益、前年同期比26%増

成田国際空港会社が12日発表した2013年4～9月期連結決算は、純利益が前年同期比26%増の128億円だった。オープンスカイの適用に伴う国際線の新規就航・増便、昨年夏からの本邦LCCの国内線就航等により、前年同期比「増収増益」となった。加えて、円安を追い風に訪日外国人客が伸び、施設内での物販や飲食が好調だった。国際線の着陸料の引き下げを受け空港運営事業は減収となったが、リテール部門の伸びが補った。売上高は4%増の994億円だった。

14年3月期通期の収益見通しは純利益が前期比18%増の181億円と、従来の見通しから27億円上方修正をした。アジア諸国からの訪日客数が増え、リテール事業が一段と伸びるとみる。売上高は3%増の1948億円と予想を55億円引き上げた。

(日経)11/12

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS1203L_S3A111C1EE8000/

(NAA プレスリリース)11/12

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS1203L_S3A111C1EE8000/

* NAA プレスリリースより

1. 航空取扱量について

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)				前回見通し (5月14日 発表)
	2012年度 実績 A	2013年度 実績 B	【増減①】		2012年度 実績 C	2013年度 見通し D	【増減②】		
			数量 B-A	% B/Ax100			数量 D-C	% D/Cx100	
航空機発着回数(万回)	10.6	11.3	0.7	107.1	21.2	22.5	1.3	106.0	23.1
国際線	8.8	8.9	0.1	101.5	17.3	17.8	0.5	102.7	18.6
国内線	1.8	2.4	0.6	134.7	3.9	4.7	0.8	120.9	4.5
航空旅客数(万人)	1,688	1,811	123	107.3	3,343	3,543	199	106.0	3,522
国際線	1,525	1,561	35	102.3	2,971	3,062	91	103.1	3,069
国内線	163	251	88	154.1	372	480	108	129.1	453
国際航空貨物量(万トン)	97	96	△1	98.9	192	191	△2	99.2	187
給油量(万kl)	233	240	7	102.8	467	479	12	102.6	487

成田空港、東電より 32 億円の損害賠償金

(東京新聞によると)

成田国際空港会社は12日、原発事故による損害賠償金として、9月に東京電力から32億円の支払いを受けたことを明らかにした。

同社によると、東日本大震災後に訪日外国人が大幅に減り、成田空港は旅客便の減便や欠航が相次いだ。昨年10月から損害賠償の協議を重ねた結果、空港使用料などの減収分を東電側が負担することで合意した。

同社はほかに、滑走路周辺の刈り草の処分費として、東電から1億6千万円の補償を受けた。刈り草は1981年から近隣農家に提供してきたが、放射性物質検出で今年7月まで自前での処分を余儀なくされていた。

(東京新聞)11/13

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/chiba/20131113/CK2013111302000135.html>

AIR DO、10月旅客利用実績、旅客数 6.9%増加、平均搭乗率 72.5%

AIR DOは10月の旅客輸送実績(速報値)を発表した。これによると、全路線合計の搭乗者数は23万9,321人で、座席供給14.4%の増加に対し、旅客数は6.9%増加となった。全路線平均搭乗率は72.5%と、前年同月と比べて5ポイント低下した。

路線別利用率では、羽田発着各路線は平均利用率76.6%と高搭乗率で、札幌線では、札幌—小松線81.0(81.8)%、神戸線77.4(68.9)%、岡山線75.9(61.7)%などの利用率が高かった。

⑨ 利用率含むANA販売分()内AIRDOのみ

(日刊航空)11/13

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>

イースター航空(LCC)、仁川—済南線就航、中国本土2都市目

イースター航空は8日、ソウルと済南を結ぶ航空線を開通し、毎週火曜日と金曜日に運行されることになった。済南行きの航空線を開通した韓国航空会社として2社目であり、イースター航空にとって中国本土で定期便を運航する2番目の都市となる。

使用機材はボーイング737-800(座席数189席)、毎週火曜日と金曜日の週2便を運航する。

また同路線には、大韓航空が既に就航しており済南とソウルを結ぶ航空便は週に9便になった。

(新華ニュース)11/12

<http://www.xinhuaia.jp/1131332011>

アメリカン航空・US エアウェイズ、12 月合併へ、司法省と和解

米航空大手アメリカン航空の親会社AMRとUSエアウェイズ・グループは12日、両社の合併計画に異議を唱えて提訴していた米司法省と和解したと発表した。

両社が合併で圧倒的なシェアを握ることになる空港の発着枠を減らすなどの措置を取った上で、合併計画を進めることで合意した。司法省の反トラスト局がワシントンの連邦地裁に 12 日提出した和解案によると、両社はワシントンにあるロナルド・レーガン・ワシントン・ナショナル空港とニューヨークのラガーディア空港でそれぞれ 104、34 の発着枠を手放すほか、ボストン、シカゴ、ダラス、ロサンゼルス、マイアミの空港でも発着枠を譲渡する。

これにより、両社は12月の合併完了を目指す。

(時事ドットコム)11/13

http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013111300026

(bloomberg)11/13

<http://www.bloomberg.co.jp/bb/newsarchive/MW65QZ6KLVR401.html>

クアラルンプール、LCC 専用ターミナル(KLIA2)、98%完成

クアラルンプール新国際空港(KLIA)格安航空会社専用ターミナル(KLIA2)の建設に関して、UEM とビナ・プリの合併は工事の進捗状況が 98%に達したと発表した。

ビナ・プリのティー・ホックセン社長によると、建設工事は年内に完工し、安全確認調査には 5 カ月を要する。安全確認調査はすでに開始されているという。マレーシアナビが報じた。

「KLIA2」は格安航空の需要の高まりを受け、現行の格安航空ターミナル(LCCT)に代わるものとして総工費 40 億リングをかけて建設が始まった。年間取扱能力は 4,500 万人に達する見通しだ。

(マレーシアナビ)11/12

<http://www.malaysia-navi.jp/news/?mode=d&i=2584>